

努力は必ず報われる。

徳永 玲海

Remi Tokunaga

AKB48

PROFILE

鳥取県出身。2019年、AKB48チーム8の鳥取県代表メンバーとして活動開始。BSSラジオ「AKB48徳永玲海・松原佑基のいまどきハイスクール」に出演中。ユニット「AKB48 SURREAL」では、「SURRY」としてセンターを務める。2022年、鳥取県を舞台にした短編映画「星取物語」では主演を務めた。



©AKB48

Rosier #03

夢は成功の始まりだという。あきらめず、まず一歩を踏み出してみることが大事だ。将来なりたい自分をイメージし、憧れに向かって突き進む若者たちがいる。スポットライトを浴びるプロスポーツやエンターテインメントの世界に飛び込んだ鳥取県出身の2人に、県内高校生・高専生から寄せられた質問に答えてもらった。

Q1

なぜアイドルになりたいと思ったのですか。

小さい頃からテレビを見るモデルさんや女優さんに憧れていて、芸能界に入ってテレビに出て、輝いてみたいと思っていました。小6の時、地元事務所に入り活動を始めましたが、その少し後にAKB48チーム8(当時の鳥取県代表メンバーのオーディション)が行われることを知りました。それまではアイドルになることは考えていませんでしたが、「動かないと何も始まらない。まず受けてみよう!」と意を決して応募。これが芸能界に入るきっかけになり、今では受けてよかったと思っています。

Q2

芸能界に入るために努力したこと、また大切にすることは。

小さい頃から芸能界に入りたいと思う気持ちは強かったけど、馬鹿にされるのが怖くて、「夢は?」と聞かれてもいつも本当のことは言えませんでした。でも「自分に正直になりたい」と思い、勇気を出して行動に移したから今があります。夢は口に出さないと誰にも分からず、思っているだけではかなわないと思います。今でも自分の夢ややりたいことを伝えることで、ファンの方も喜んでくれて「一緒に頑張ろう!」と応援してもらえて、とても心強いです。思うだけでなく行動することが大事だと感じています。

Q3

仕事でやりがいを感じるのはどんな時ですか。

コンサート会場や劇場で、自分のうちわやペンライトを持ったファンの方を見たり、お話し会や握手会のときに笑顔で話してもらえたりすると、本当にうれしいです。ファンの方がいるからこそアイドルとして活動できています。喜んでもらえることが自分の活動の力になり、やりがいにつながっています。



鳥取ゆかりのあの人に
高校生・高専生からの質問に
答えてもらいました!!

Q3

サッカーを通じて学んだことは何ですか。

私は足がすごく速いわけでもないし、フィジカルが特に強いわけでもないです。でも、小中高、そしてプロ選手と、忍耐強く競技を続けてきたことは、サッカー以外の分野でも生かせると思っています。目的をしっかりと決めないと、現状に甘えてしまうタイプなので、ストイックに練習に打ち込むことで、そういうところを出さないように続けてきたというのもあります。



Q5

高校生たちに向けて何かアドバイスを。

高校時代は、よく壁にぶち当たる時期だと思います。私の場合はプロという存在が近くなればなるほど、「こんなに壁って高かったんだ」って気づき、そのときは、ちょっと落ち込んだこともありましたが、でも、自分でしっかり考え「やりたいことだから」と思って続けていると課題などの具体的なものが見えて、道が開けてくると思います。打ち込めるものがあるのは、とてもいいことです。好きなものや「これやりたいな」というものがあれば駄目だと思わずに、ぜひ続けてほしいです。

とっとり未来創造プロジェクト
挑戦
Challenge

世瀬 啓人

Hiroto Sese

プロサッカー選手
ガイナレ鳥取

PROFILE

1999年8月20日生まれ、倉吉市出身。FCカミノ、ガイナレ鳥取U-18を経て2018年にトップチーム昇格。身長183cm、体重73kg。足元の技術の高いボランチ。入団6年目の2023年シーズンは36試合に出場。24歳。

Q1

サッカーとの出会いはいつでしたか。

3歳の誕生日にサッカーボールを買ってもらったのがきっかけ。5歳の時に倉吉市のクラブチーム「FCカミノ」で競技を始めました。その頃から、将来の夢は「プロのサッカー選手」でした。高校に入学して、ガイナレ鳥取U-18に加入。そこでトップチームの練習に参加するようになり、プロ選手を意識するようになりました。

Q2

持っている力を発揮するために必要なことは。

自分がやるべきこと、もっと成長したいと思うことは、プロになった今でも常に考えています。あと、練習の後によく体の動きや足にボールが当たった感覚などを確認するため、壁に向かってボールを蹴ります。いいイメージで練習を終えて、試合に臨むようにしています。

Q4

これからの目標を教えてください。

プロ選手は、子どもたちに「夢を与える、夢になる仕事」だと思っています。保育園や小学校に行くと「僕もサッカーやってるよ」って話しかけてくれたり、スタジアムへ応援に来てくれたりします。そんな子どもたちにもっとかっこいい姿を見せ、もっと憧れの存在になれるようになります。そして、自分が活躍することは、育ててもらった地元、お世話になった人たちへの恩返しになると思っています。

とっとり未来創造プロジェクト — 挑戦 — 協賛企業・団体 私たちは若い世代の挑戦を応援しています
